スポーツ庁
JAPAN SPORTS AGENCY

令和6年度

地域スポーツクラブ活動体制整備事業

地域スポーツクラブ活動への移行に向けた実証事業

富山県高岡市

自 治 体 名 ： 富山県高岡市
担 当 課 名 ： 学校教育課
電 話 番 号 ： ０７６６－２０－１４８０

1.自治体の基本情報

スポーツ庁

基本情報

面積	210 ㎢
人口	162,851 人
公立中学校数	12 校
公立中学校生徒数	3,659 人
部活動数	123 部活
市区町村の協議会・検討会議等の設置状況	設置済み （令和３年度より）
市区町村の推進計画・ガイドライン等の策定状況	なし

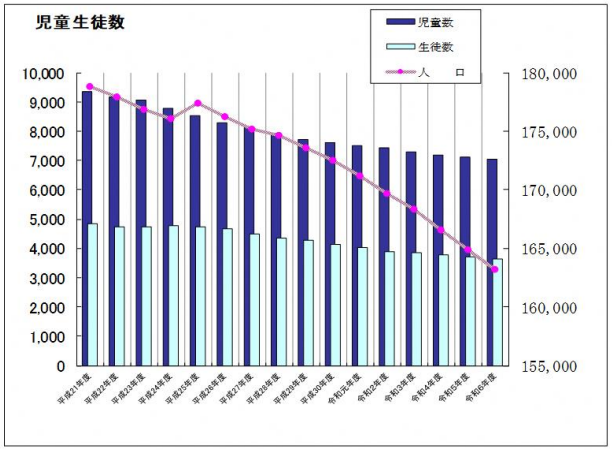
地域連携・地域移行における市区町村の現状・課題

本市においては、中・義務教育合わせて12の中学校を有しており、市域も広域にわたっている。他の自治体と同様に、人口減少とともに中学校等の生徒数も減少傾向にあり、令和６年度の3,659人に対し、令和12年度には3,395人に減少する見込みである。

Sosiety5.0の時代を創造性豊かにたくましく生きる児童生徒の育成を目指し、教育充実を図るため、市内全ての小中学校で小中一貫教育を推進するとともに、学校・家庭・地域が一体となり、地域ぐるみで子供たちの成長を支える高岡モデルの地域部活動の構築を目指している。

令和３年度から段階的に休日の学校部活動の地域移行に向けた実践研究を進めており、令和４年度からは、中学校11校と義務教育学校１校を対象として全市一斉展開型の地域部活動の体制づくりに取り組んでいる。令和６年度は、16の地域クラブ活動を各種目12回程度を目安として実施、クラブの運営は、高岡市スポーツ協会傘下の各競技団体に依頼した。

これまでの取組を通じて、参加生徒数や内容の充実がみられる一方で、参加者数に対して、指導者が不足している種目（競技）が多いことや、参加人数が多く、大会規定により１つのクラブから１チームしか出場できない現状では、大会出場が難しい種目（競技）もみられること、参加生徒の中には、家庭的な事情で会費を支払うことができないケースもあることなど、様々な課題が浮き彫りとなりつつある。

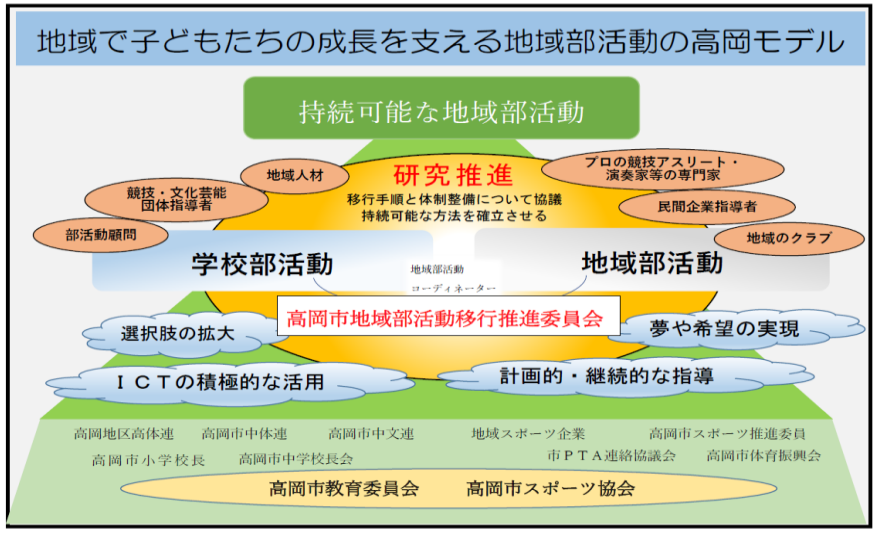


2.実証内容と成果

スポーツ庁

運営体制・役割

●運営体制図（市区町村における推進体制図）



●行政組織内での役割分担

◉教育委員会

・地域部活動移行推進委員会の運営
・各種目運営団体（競技団体）や学校、高岡市スポーツ協会等関係機関との連絡調整
・事務関係庶務　　・会計管理事務

◉首長部局

・予算執行

年間の事業スケジュール

令和６年５月	・第１回高岡市地域部活動移行推進委員会 ・指導体制調査
令和６年６月	・コーディネーター連絡会議の開催
令和６年７月	・小委員会の開催
令和６年８月	・種目運営団体からの聞き取り、調整
令和６年10月	・学校からの聞き取り、調整
令和６年11月	・第２回高岡市地域部活動移行推進委員会 ・指導者対象研修会
令和６年12月	・次年度に向けた活動内容調整会議
令和７年１月	・指導者講習会（中止）
令和７年２月	・新入生説明会等における新１年生に対する説明 ・会計状況調査
令和７年３月	・次年度に向けた各種案内書類の作成と配布

2.実証内容と成果

スポーツ庁

地域スポーツクラブ活動の運営実績

①全体に関すること

中学校数	12 校	実施した地域クラブ総数	16 クラブ
ケース別クラブ数	A：部活動を地域移行した形のクラブ数（及び移行された部活動数）		0 クラブ（0 部活）
	B：部活動を移行する形態ではない地域クラブ（新たな種目のクラブを新規に創設するケース等）		16 クラブ
全体の指導者数	73 人	全体の運営スタッフ数	88 人

②各クラブに関すること

クラブ名	運営団体種別	種目 ※新規のものは末尾に（新）を付ける	実施回数	実施時間帯	参加者（学年別）	実施期間	活動場所	指導者数	運営スタッフ数（他クラブと兼務）	会費	大会参加方法
高岡T&Fクラブ	地域スポーツ団体	陸上競技	月１～２回（年間10回）	午前または午後	中１　54名 中２　31名 中３　30名	4～11月	高岡市城光寺陸上競技場	12人	15人	年会費 3,000 円	地域クラブ
高岡市地域クラブ軟式野球	地域スポーツ団体	軟式野球	月１～２回（年間28回）	午前	中１　９名 中２　18名 中３　11名	４～３月	高岡市立中田中学校	４ 人	５人	年会費 5,000 円	大会参加なし
高岡市地域クラブソフトボール中学女子	地域スポーツ団体	ソフトボール	月１～３回（年間11回）	午前	中１　９名 中２　16名 中３　14名	５～２月	高岡市立志貴野中学校	２ 人	４ 人	年会費 800 円	大会参加なし
高岡市地域クラブソフトテニス	地域スポーツ団体	ソフトテニス	月１～２回（年間14回）	午前	中１　35名 中２　35名 中３　30名	５～３月	高岡市スポーツコア、高岡市立南星中	２ 人	２ 人	年会費 1,000 円	大会参加なし

2.実証内容と成果

スポーツ庁

地域スポーツクラブ活動の運営実績

クラブ名	運営団体種別	種目 ※新規のものは末尾に（新）を付ける	実施回数	実施時間帯	参加者（学年別）	実施期間	活動場所	指導者数	運営スタッフ数（他クラブと兼務）	会費	大会参加方法
高岡市地域クラブ卓球	地域スポーツ団体	卓球	月１～２回（年間12回）	午前	中１　21名 中２　６名	６～２月	高岡市戸出コミュニティセンター	５人	５人	年会費 10,000 円	大会参加なし
高岡市地域クラブバドミントン	地域スポーツ団体	バドミントン	月１～２回（年間11回）	午後	中１　21名 中２　７名 中３　２名	５～２月	高岡市立高岡西部中学校	２人	２人	年会費 6,850 円	大会参加なし
高岡市中学生バレーボールクラブ	地域スポーツ団体	バレーボール	月１～２回（年間12回）	午前または午後	中１　54名 中２　41名	９～２月	高岡市立戸出中学校ほか	７人	８人	年会費 2,000 円	大会参加なし
高岡市地域クラブバスケットボール	地域スポーツ団体	バスケットボール	月１～２回（年間11回）	男子　午前 女子　午後	中１　25名 中２　45名	９～３月	高岡市立高陵中、竹平記念体育館	10人	12人	年会費 1,500 円	大会参加なし
TAKAOKA OWL	地域スポーツ団体	ハンドボール	月３～４回（年間37回）	午前または午後	中１　12名 中２　12名 中３　５名	４～３月	高岡市立高陵中、芳野中ほか	６人	６人	年会費 12,000 円	大会参加なし
高岡市地域クラブ相撲	地域スポーツ団体	相撲	月２～３回（年間30回）	午前	中３　２名	４～２月	高岡高陵高校	２人	３人	年会費 12,000 円	大会参加なし
高岡市地域クラブ剣道	地域スポーツ団体	柔道	月１～４回（年間39回）	午前	中１　18名 中２　23名 中３　26名	４～３月	県営高岡武道館	10人	12人	年会費 4,000 円	大会参加なし

2.実証内容と成果

スポーツ庁

地域スポーツクラブ活動の運営実績

クラブ名	運営団体種別	種目 ※新規のものは末尾に（新）を付ける	実施回数	実施時間帯	参加者（学年別）	実施期間	活動場所	指導者数	運営スタッフ数（他クラブと兼務）	会費	大会参加方法
高岡市地域クラブ剣道	地域スポーツ団体	剣道	月１～２回（年間12回）	午前	中１　34名 中２　22名 中３　14名	4～３月	県営高岡武道館	６人	８人	年会費 2,000 円	大会参加なし 地域クラブ
高岡マット運動クラブ	地域スポーツ団体	体操・新体操	月１～３回（年間11回）	午前	中１　４名 中２　６名 中３　５名	４～３月	高岡市立芳野中学校、塩谷建設	３人	３人	年会費 10,000 円	大会参加なし
高岡市地域クラブ弓道	地域スポーツ団体	弓道	月２回（年間12回）	午前	中１　４名 中２　７名	９～２月	高岡市立伏木中学校	２人	３人	年会費 850 円	大会参加なし

- このほかに、水泳競技とサッカー競技の２種目が、市の地域部活動移行推進事業に参加。水泳競技はすでに移行済みのため、実証事業としての実績なし。
  サッカー競技は実証事業としてのクラブ活動に参加者がなかったため、今年度は実績なし。

③その他、体験会やイベント等の開催実績

- 開催実績なし

2.実証内容と成果

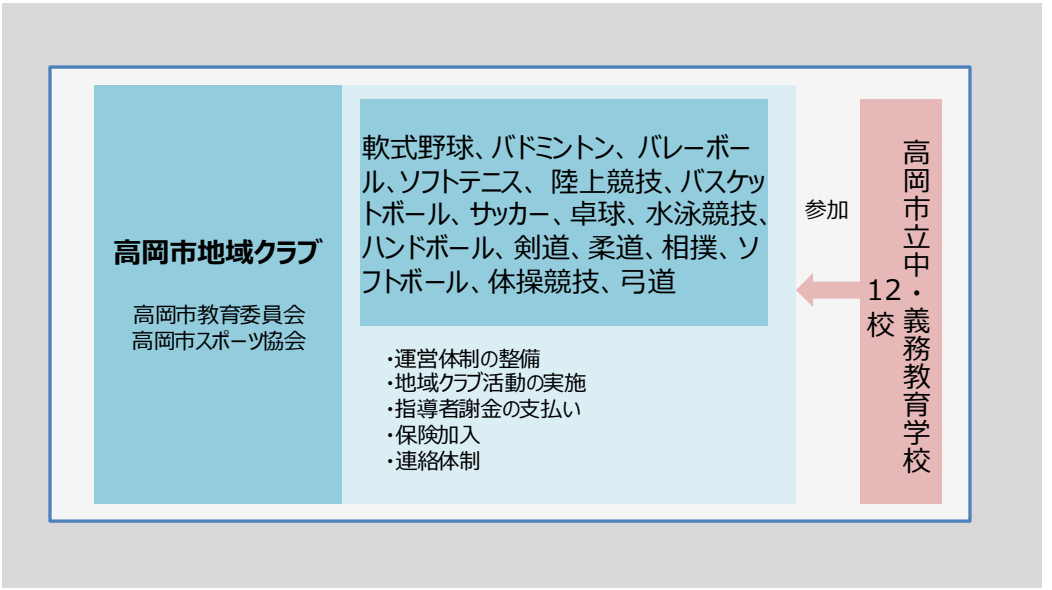
スポーツ庁

主な取組例

●高岡市地域クラブ　活動概要

地域クラブ活動で実施した種目	軟式野球、バドミントン、バレーボール、ソフトテニス、陸上競技、バスケットボール、サッカー、卓球、水泳競技、ハンドボール、剣道、柔道、相撲、ソフトボール、体操競技、弓道
運営団体名	高岡市地域クラブ
期間と日数	４月～３月 （各種目の実態に応じて）
指導者の主な属性	高岡市スポーツ協会傘下の各競技団体関係者、高岡市立学校教員ほか
活動場所	市内中学校、市内スポーツ施設
主な移動手段	保護者送迎、公共交通機関
１人あたりの参加会費等（年額）	種目（競技）ごとに設定 （800円～12,000円）
１人あたりの保険料	スポーツ安全保険 生徒１人あたり：800円/年 指導者１人あたり：1,850円/年

●運営体制図（地域クラブ活動を実施する際の運営体制図）



●指導者や運営スタッフなどの役割分担等

●各種目代表者（高岡市地域部活動推進委員）

役割：各種目のクラブ活動の企画・立案・連絡調整を行うとともに、高岡市地域部活動移行推進委員として、運営主体との連絡調整を行う。

●指導者

役割：技術面、生活面での指導に当たるとともに、会計事務や保護者との連絡等の運営の実際を担う。

●運営スタッフ

役割：指導者をサポートするとともに、会計事務や保護者との連絡等の運営の実際を担う。

2.実証内容と成果

取組内容

●取組項目名　イ：指導者の質の保障・量の確保　／　ウ：関係団体・分野との連携強化

取組事項　イ

① 指導者の人数を確保のため、各種競技団体（高岡市スポーツ協会に加盟する競技団体）と連携の充実を図る。
② 地域のプロスポーツ等のアスリートを活用し、指導者としての役割を担ってもらう。
③ 指導者の質の向上を図るため、指導者研修会を実施する。
④ スポーツ協会と連携して、指導者育成研修会を開催するなど、日本スポーツ協会公認スポーツ指導者資格等の取得を促進する。

取組事項　ウ

① 推進委員会の開催
各競技団体代表者、小・中学校長会、中体連、高体連、ＰＴＡ等からなる推進委員会を開催
② 小委員会、地域部活動コーディネーター研修会の開催
個人競技、団体競技別に、小委員会を開催し、意見交換会を実施
地域部活動コーディネーター研修会を実施

各種競技団体との連携の充実（イ）
推進委員会の開催（ウ）
小委員会の開催、地域部活動コーディネーター研修会の開催（ウ）

高岡市地域部活動移行推進委員会や小委員会等の場における各種競技団体間の情報交換を通じて、クラブ活動の運営の在り方や各競技団体の実情に応じた指導者確保の工夫等の諸課題について情報共有し、今後の取組に生かす。

また、各競技団体から「学校部活動の意欲的な顧問教員の中に指導の協力を願いたい」との声が多数寄せられたことから、教員の兼職兼業による指導者確保に向け、校長会と連携した取組を行う。

そのためにも、校長会や中体連の協力を得て、教員の中から、各競技団体との連絡・調整役を担う「地域部活動コーディネーター」を指名し、各種競技団体との連携の充実の在り方について模索する。

地域のプロスポーツ等のアスリートを活用（イ）

より専門的な指導の充実を目指し、地元プロスポーツチームや実業団チーム、アマチュアチーム等との連携の在り方を模索する。

指導者研修会の実施（イ）

これまで、体罰やセクシャル・ハラスメントの防止に関する研修、弁護士によるコンプライアンス研修等を行ってきた。

中学生の指導に当たっては、技能向上に必要な技術指導以外に、生徒理解等の生徒指導に関する指導力が必要となることなど、クラブ活動の運営に当たって必要な知識や指導の在り方に関する研修を実施する。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組
オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組

スポーツ庁

取組内容

●取組項目名　イ：指導者の質の保障・量の確保　／　ウ：関係団体・分野との連携強化

取組の成果

各種競技団体と連携し、指導者の確保に努めた結果、複数の種目で指導者の増加がみられた。

ハンドボール競技においては、指導者総数は減少したものの、プロ選手を指導者として据え、活動内容や指導の質の向上を図っている。このほか、相撲競技においては、現役のアマチュア選手が指導に加わり、参加生徒が全国大会に出場するなど成果を残している。また、指導意欲の高い教員の協力を得て指導体制を整えている種目（競技）も増えてきている。

一方で、指導者の高齢化が進み、若手指導者に苦慮している種目（競技）もみられ、競技団体が指導者報酬を独自に予算化し対応しているケースの報告も受けている。

指導者研修会については、「スポーツ協会や各競技の上位団体による様々な研修において類似のものが多く、必ず参加する必要があるのか」「１年間に同種の研修を２～３回受けるケースもあり、調整してほしい」との声が多くみられたため、実施の在り方について慎重に判断することとした。ニーズの調査を踏まえた上で研修会を実施する必要があることから、本年度の実施を見合わせ、次年度以降、関係機関との連携や調整を行った上で、クラブ活動運営の充実に資する指導者研修会の在り方について模索していくこととした。

種目	R５	R６	増減
水泳競技	※	※	※
陸上競技	8	12	+4
野球	2	4	+2
ソフトボール	2	4	+2
ソフトテニス	2	2	0
卓球	2	5	+3
バドミントン	2	2	0
バレーボール	5	7	+2
バスケットボール	4	4	0
ハンドボール	7	6	-1
サッカー	6	※	※
相撲	2	2	0
柔道	14	10	-4
剣道	2	6	+4
体操・新体操	2	3	+1
弓道	未実施	2	+2
合計	**60**	**69**	**+9**

※　水泳競技は、すでに地域移行済みのため、実証事業としての取組には不参加。サッカーについては、実証事業のクラブ活動の参加希望がなかったため、本年度は未実施

参加生徒・学校部活動顧問の声

【生徒から】
- 自分の苦手とするプレーのポイントを学ぶことができ、普段の学校での練習に生かしていきたい。
- 少しずつ上達しているような感じがしてうれしい。

【学校部活動顧問から】
- 自分が専門ではないため、学校での指導に限界がある中、地域クラブにおいて専門的な内容を学ぶことができ、生徒の活動の充実につながっている。

2.実証内容と成果

スポーツ庁

取組内容

●取組項目名　キ：学校施設の活用等

取組事項

① 学校の施設、設備、備品等を使用して、地域部活動を実施する際の決まりなどを策定する。

② 地域部活動が学校体育施設を利用する場合の優先利用の仕組みについて検討する。

取組の成果

下記のルールを設定の上、学校施設の活動の推進を図った。

1 各種目ごとに地域部活動コーディネーターが学校と競技団体の仲立ち役となって、中学校の体育館を予約する。
2 中学校の体育館使用は、地域クラブの活動を優先する。
3 地域クラブが実施される日は、当該種目（競技）の学校部活動は実施しない。

【成果】

各種目の地域クラブにおいては、会場使用料や設備利用料の面での金銭的な負担や会場確保に係る人的負担が解消されるといった成果がみられた。

また、学校部活動の顧問にとっては、休日の部活動にかかる負担が軽減された。

【課題】

成果の一方で、多くの課題が浮き彫りとなっている。

① 各種目（競技）が希望する会場が、市内中心部の中学校に集中し、当該の中学校の負担となっている。
② 地域クラブの活動日は種目ごとに設定されているため、他の種目の学校部活動が活動できないという問題が発生している。
③ 学校体育館の鍵の開閉のため、当該種目（競技）の学校部活動顧問が出勤せざるを得ないケースも発生しており、施設管理においてより詳細なルールの新設が必要である。
④ 地域部活動コーディネーターの教員が、種目運営（競技）団体と学校との板挟みにあい、調整に苦慮するケースが発生している。
⑤ 体操等、特殊な設備を必要とする競技においては、中学校体育館の使用には限度がある。

今後の課題と対応方針

学校施設の使用に当たり、様々な課題が浮き彫りとなったことから、特に会場確保に当たっては、各種目（競技）の利用希望が出そろった段階で、市教育委員会が中心となって調整を図り、周辺部の中学校施設の利用を促すなど、調整を行う。

新年度より、学校体育館に電子錠を設置することから、ルール等を新設し、円滑な施設利用につなげることができるよう、調整を図る。

2.実証内容と成果①

スポーツ庁

総括・成果の評価・今後に向けて

●総括

高岡市においては、Sosiety5.0の時代を創造性豊かにたくましく生きる児童生徒の育成を目指し、その教育充実を図るため、市内全ての小中学校で小中一貫教育を推進するとともに、学校・家庭・地域が一体となり、地域ぐるみで子供たちの成長を支える高岡モデルの地域部活動の構築を目指している。

こうした中、令和３年度から段階的に休日の学校部活動の地域移行に向けた実践研究を進めており、令和４年度からは、高岡市スポーツ協会傘下の各競技団体の協力の下、中学校11校と義務教育学校１校を対象として全市一斉展開型の地域部活動の体制づくりに取り組んでいる。

全市一斉展開型の体制づくり３年目となる令和６年度は、16種目の地域クラブ活動を展開する中で、種目ごとに成果や課題にばらつきがみられるようになってきている。特に、団体種目においては、参加者数に対して会場が少ないことをはじめとして多くの課題が浮き彫りとなっており、今後の地域展開の在り方について、関係機関との連携と協力がますます不可欠となってきている。

●成果の評価

各種目（競技）ごとの活動内容や指導者確保の面においては、運営団体の工夫等もあり、充実がみられるようになっている。

その一方で、先に述べた会場確保における課題に加え、少子化の進展に伴い学校部活動単独ではチームを組むことができない種目（競技）が目立つようになっている。そうした種目では、「学校外のクラブチームに所属したもののそこでの活動に満足感を得ることができず、学校部活動に戻りたい」と希望する生徒がみられる現状もあり、各学校においては、従来からの少子化や教員の過重負担に加え、こうした新たな課題に対応を苦慮している実情がある。

●今後に向けて

今後も引き続き、全市一斉展開型の地域移行・地域展開の在り方について、市校長会や市中体連、市スポーツ協会、市内各競技団体をはじめとした関係機関との連携を深め、中学生の競技力の向上を目指した地域ぐるみの体制づくりに取り組む。

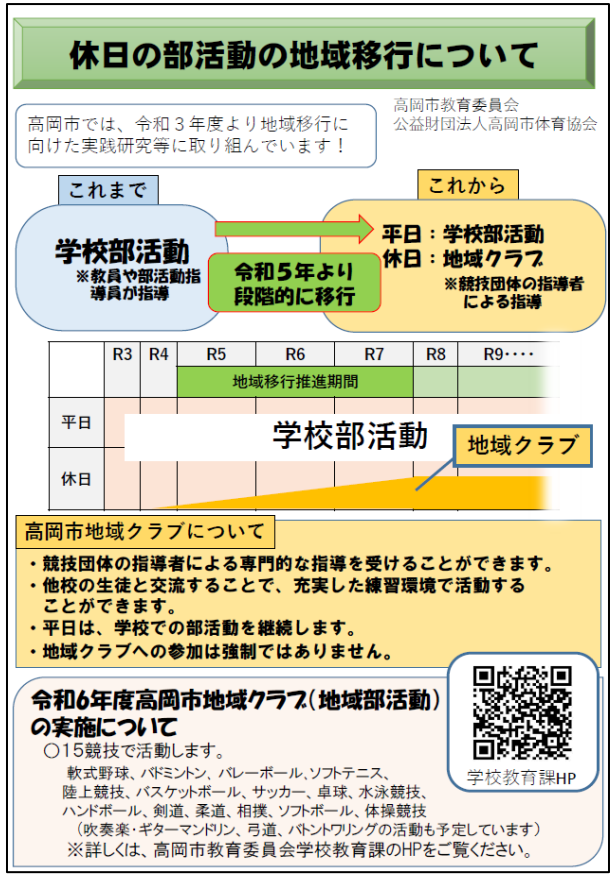
こうした中で新たに発生する多くの課題について、関係機関の協力を得ながら解決に向けた取組みを推進するとともに、国や県への働きかけを通じて、人的側面、財政的側面での強力な支援を得ることができるよう努めてまいりたい。

2.実証内容と成果③

スポーツ庁

広報資料

１月下旬から２月上旬に開催される各中学校の「学校説明会」において地域部活動について広報するとともに、新２・３年生の配布や高岡市のホームページにも取組を掲載している。



☆令和６年度の地域クラブの活動予定一覧

（令和６年1月現在）

	競技名	参加費（年間）	実施回数（年間）	実施予定日	主な会場	その他
1	陸上競技	¥3,000	12回	土、日午前	城光寺陸上競技場	参加費は保険料含む
2	軟式野球	¥6,000	30回	土、日、祝日	市内中学校	参加費は保険料含む
3	ソフトボール	¥800	12回	土曜日午前	志貴野中学校	参加費は保険料のみ
4	ソフトテニス	¥800	12回	土、日午前	南星中学校	参加費は保険料のみ
5	卓球	¥10,000	12回	第2土曜(5月～3月)	戸出コミュニティ	参加費は保険料含む
6	バドミントン	¥6,000	12回	日曜日午後	高岡西部中学校	参加費は保険料含む
7	バレーボール	¥2,000	12回	第1,3土曜日（9月から）	戸出中学校 高岡西部中学校	参加費は保険料含む
8	バスケットボール	¥1,500	12回	土曜日午前	高陵中学校 福岡中学校	参加費は保険料含む
9	ハンドボール	¥12,000	40回	日曜日	市内中学校	参加費は保険料含む 中体連の大会出場予定
10	サッカー	¥5,000	40回	土曜日、月曜日	高陵中学校	参加費は保険料含む 中体連の大会出場予定 ※別途登録料等必要
11	相撲	¥1,2000	12回	土曜日午前	射水相撲場 向陵高校	参加費は保険料含む
12	柔道	¥4,000	40回	土曜日午前	高岡武道館	参加費は保険料含む 中体連の大会出場予定
13	剣道	¥2,000	12回	土曜日午前	志貴野中学校	参加費は保険料含む
14	体操・新体操	¥12,000	12回	第2、第4土曜日	芳野中学校　他	参加費は保険料含む

※水泳競技は、地域のクラブを中心に活動しています。

※吹奏楽･ギターマンドリン、弓道、バトントワリングについても実施する予定としています。

※活動予定一覧は、内容に変更があれば随時更新されます。

※参加希望者は、今後各地域クラブから配付される参加申込書を提出してください。（詳細は改めてご案内します。）

【児童･生徒への広報チラシ】

出典:高岡市ホームページ

2.実証内容と成果④

スポーツ庁

参考資料（活動写真）



【陸上競技】



【剣道】



【バスケットボール】



【柔道】

2.実証内容と成果

スポーツ庁

地域スポーツクラブ活動の実施に至るまでの合意形成プロセス

令和３年
高岡市地域部活動移行推進委員会設置、検討開始

▶

令和４年
運動競技11種目における受け皿団体や指導者の選定と試行

▶

「地域部活動コーディネーター」の設置

▶

令和５年
運動競技３種目を追加し、14種目のクラブで実施

▶

運動競技１種目を追加し、15種目のクラブで実施

▶

令和６年
運動競技1種目を追加し、16のクラブで実施

ステークホルダー

市教育委員会、市体育協会、各競技団体、プロスポーツ運営会社、中体連、校長会　ほか

経過

令和３年５月に、高岡市地域部活動移行推進協議会を立ち上げ、休日の活動機会や活動場所、専門的な技術指導を受けることができる場の確保を目指す、高岡ならではの地域部活動の在り方について検討を開始した。令和５年には、意欲のある教員等の協力の下、立ち上げが遅れていた種目のうち４種目で、さらに令和６年度において、残りの１種目で指導体制を整備し、実証事業を進めている。

実施内容

市内12中学校に設置されている16種目すべてのクラブが設置され、それぞれの種目ごとに活動日程を設定の上、実施している。

実施にあたって生じた課題

休日のクラブ活動において、活動場所の予約や鍵の貸出に対する指導者の負担が大きいことが指摘された。令和７年度から、全中学校で導入されるオンライン予約システムとスマートロックを活用することを検討し、実施に向けたルールづくりに取りかかっている。

少子化の進展に伴い学校部活動単独ではチームを組むことができない種目（競技）が目立つようになっている。そうした種目では、「学校外のクラブチームに所属したもののそこでの活動に満足感を得ることができず、学校部活動に戻りたい」と希望する生徒がみられる現状もあり、各学校においては、従来からの少子化や教員の過重負担に加え、こうした新たな課題に対応を苦慮している実情がある。

今後の展開

今後も引き続き、全市一斉展開型の地域移行・地域展開の在り方について、市校長会や市中体連、市スポーツ協会、市内各競技団体をはじめとした関係機関との連携を深め、中学生の競技力の向上を目指した地域ぐるみの体制づくりに取り組む。

3.今後の方向性

スポーツ庁

地域連携・地域移行の推進に向けたロードマップ

